

| | | | | | | | |
|--|--|-----|------|---------|---|------------|----------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 介護過程ⅡA (DD309) | | | 担当教員 | 久田 貴幸 | | |
| 展開方法 | 演習 | 単位数 | 1 単位 | 開講年次・時期 | 3 年・前期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ・ラーニングの類型 |
| <p>本演習は、介護による利用者の生活支援活動に不可欠なものであり、介護も専門的知識・技術からなる介護実践の全体像である。本演習では、他の科目の知識や技術を統合し、利用者の状態・状況に応じた介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスを提供できる能力を養う。</p> <p>本演習は、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている、介護福祉士としての専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p> | | | | | | | ④⑤⑥ ⑦⑨ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | <ul style="list-style-type: none"> エビデンスと連携のあり方について説明ができる。 他科目で得た知識と介護過程で得た知識を統合し、関係づけることができる。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 確認テスト 課題レポート | 30% 20% | |
| 情報収集、分析力 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の情報を、アセスメントを意識して収集し類別できる。 利用者の課題を指摘できる。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 発表レジュメ | 20% | |
| コミュニケーション力 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者特性を理解し、配慮しながら課題解決に向け討議ができる。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 発表 | 10% | |
| 協働・課題解決力 | <ul style="list-style-type: none"> ICF や問題解決の視点で課題分析し、計画立案や展開方法に寄与できる。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度・参加度 | 20% | |
| 多様性理解力 | | | | | | | |
| 出席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 確認テスト (30%) : 第 15 回授業時に解説を含めた確認試験を実施する。 課題レポート (20%) : 演習発表レジュメは演習資料ともなる。未提出や提出遅延、体裁不備等は減点の対象とする。 授業態度・授業への参加度 (20%) : 個人ワーク及びグループワークへの参加態度を評価の対象とする。 発表 (10%) : 司会進行、書記、発表者を担当し、発表がスムーズに行うための事前準備状況も含めた評価とする。 発表レジュメ (20%) : 発表時の資料で評価を実施する。 課題や学生からの質問に対しては、ポートフォリオ等を使用してフィードバックを行う。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>身近な事例や介護実習Ⅰでの利用者の事例を取り上げ展開する。事例をもとに様々な側面で支援が必要な利用者を想定し、アセスメントを踏まえた情報収集を行い、介護計画をどのように実施展開されていくのかを学んでいく。</p> <p>尚、個人ワークやグループワークの形態で実施し、発表、発表後の評価（自己評価と他者評価の両面からの評価をポートフォリオ等を使用してフィードバック）、振り返りを行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書 : 最新 介護福祉士養成講座 (2022) 『介護過程』 中央法規出版</p> <p>参考書 : 適宜紹介する</p> <p>指定図書 : 角濱春美著 『実践 高齢者のフィジカルアセスメント-老化を理解して異常を見逃さない!』 株式会社メディカ出版</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>利用者の生活理解や把握が重要である。そのためには、現在の自分自身の生活の送り方、一日の過ごし方、希望の生活等を意識的に捉えることが大切である。また、介護実習Ⅰで関わられた利用者からの学び、残された課題等を他者に伝えられるように事前準備にも努めてほしい。さらに、グループでの事例検討も実施予定であるため、主体的な参加姿勢で授業に臨むことを期待している。</p> | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|----------------------------|---|---|
| 1 | 介護福祉における介護過程の意義と目的 | 介護を展開していく上で、介護過程の理論を踏まえる必要性と意義・目的を学修する。 | 予習：介護過程の意義調べ 復習：テキスト・配布資料の再読 |
| 2 | 介護過程と ICF | 介護過程の展開に必要な ICF の概念を確認し、その必要性について学修する。 | 予習：起床⇒就寝までの活動まとめ 復習：配付資料の再読 |
| 3 | 生活支援における介護過程 | 高齢者や障害者の生活における課題を理解し、生活ニーズについて学修する。 | 予習：介保サービス調べ 復習：配付資料の再読 |
| 4 | 介護過程の展開 | 介護過程の手順、専門性を具現化することが介護過程であるということを学修する。 | 予習：介護過程の手順調べ 復習：配付資料の再読 |
| 5 | アセスメント① | アセスメントの意義と目的を学修する。 | 予習：アセスメントが指す事柄を挙げておく 復習：小テスト復習 |
| 6 | アセスメント② | 多様な利用者に応じて、アセスメントを踏まえた情報収集を学修する。 | 予習：アセスメントの方法を調べる 復習：配付資料の再読 |
| 7 | ケアプランの作成① | 生活課題の抽出と支援目標について学修する。 | 予習：選出利用者の生活課題や支援目標をまとめる 復習：配付資料の再読 |
| 8 | ケアプランの作成② | 長期目標や短期目標としての目標設定と、支援の内容について学修する。 | 予習：長期目標・短期目標設定の留意点を考える 復習：配付資料の再読 |
| 9 | ケアカンファレンス 介護過程とチームアプローチ | ケアカンファレンスの目的と意義、実際と進め方について学修する。チームとしての介護過程を展開することの意義や方法を理解する。 | 予習：ケアカンファ開催時期や参加者調べ 復習：配付資料の再読 |
| 10 | 介護過程の実践的展開① 介護過程の展開の理解① | 利用者の情報を収集の方法について、実際のアセスメント票を用いて実践する。 | 予習：選出した利用者の状況を説明できるよう、発表原稿をまとめておく 復習：小テスト復習 |
| 11 | 介護過程の実践的展開② 介護過程の展開の理解② | 収集した利用者情報について、ICF のシートを活用して分類・分析する方法を実践する。 | 予習：アセス手法調べ 復習：授業時介護計画と実習時介護計画を比較する |
| 12 | 介護過程の実践的展開③ 介護過程の展開の理解③ | 分析によって抽出したニーズを基に、計画書を作成する。 | 予習：選出した利用者の状況を説明できるよう、発表原稿をまとめておく 復習：配付資料の再読 |
| 13 | 介護過程の実践的展開④ 介護過程の展開の理解④ | ケアカンファレンス（グループワーク）を行い、各自で作成した資料を基にプレゼン資料を作成する。 | 予習：選出した利用者の状況を説明できるよう、発表原稿をまとめておく 復習：配付資料の再読 |
| 14 | 介護過程の実践的展開⑤ 介護過程の展開の理解⑤ | 第 13 回授業で作成した資料を基に、グループごとに発表を行う。 | 予習：発表レジュメ作成 復習：授業／実習での介護計画を比較する |
| 15 | 介護過程の実践的展開 まとめ | 介護過程の展開に必要な用語や概念について確認試験を行う。 | 予習：モニタリングと評価の概要まとめ 復習：事例の振り返り |